

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 3 年 9 月 29 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 17名
地域アンケート回答数	4名	

※事業所記入

事業所番号	松山市 第3870105721号
事業所名	グループホーム元気家
(ユニット名)	太陽
記入者(管理者)	
氏 名	芝 貴子
自己評価作成日	令和 3 年 9 月 5 日

【事業所理念】 1人ひとりの思いを大切に、良い信頼関係を築き、安全で楽しく、穏やかな生活が送れるように支援します。	【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ・毎月行う全体ケアカンファレンスを記録・整理する事で、スタッフ全員が情報共有するとともに体調の変化や経緯がわかりやすくなった。 ・経過記録記入時に行った支援内容の実行部分に下線を入れる事で毎日の実施評価表の評価がしやすく、またモニタリングの際活用しやすくなった。 ・家族による運営推進会議や防災訓練への参加、また利用者との外出やイベントの参加などの取り組みは新型コロナウイルス感染予防の為中止。いつもの生活に戻った際もう一度取り組みたい。	【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 国道から少し入った自然が感じられる閑静な川沿いの近くに、2階建ての事業所は立地している。職員は利用者との日々の会話やかかわりを持つ時間を大切にしており、訪問調査日にはリビングや居室でリラックスした利用者の笑顔や、活き活きと活動する利用者の様子を窺うことができた。また、事業所では生活リハビリなどを取り入れ、心身機能の維持や向上に取り組むとともに、利用者の身体状況の変化が見られても、手すり拭きなどを見つけてできることを手伝ってもらうなど、利用者自身に自立を促したり、自信につなげたりするなどの支援に努めている。現在のコロナ禍において、事業所では外出や面会などの制限が設けられているものの、日常的に事業所周辺の川沿いを散歩したり、事業所内でできる夏祭りや敬老会などの季節の行事を開催したりするなど、利用者が安心して楽しみのある生活が送れるよう支援している。さらに、事業所には勤務歴の長い職員も多く、職員は安定したチームワークの中で、利用者の日々により良いケアを提供することができています。
--	---	---

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅰ.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	日常をとおして側に寄り添う時間を持ち会話・傾聴する事で本人の思いを把握できるよう努力をしている。	◎		◎	日々の会話やかかわりを大切にして、職員は利用者の思いや希望を聞き取るほか、意思表示が難しい場合には行動パターンや表情等からくみ取るよう努めている。また、利用者の状況の変化が見られた場合には、思いや希望も変わる場合もあり、職員は話を聞きながら、思いなどの把握に努めている。さらに、把握した内容は、フェイスシートやICFシートなどに記載し、職員間で共有している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	本人の表情を観察したり本人を取り囲む家族や知人に話を聞くなどして本人の立場で考え検討している。				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	家族や親しかった知人などと話し合う機会を多く持ち、本人が今どういった生活を望んでいるか話し合っている。				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	新たに知りえた思い等はケースファイルや毎月行うカンファレンスの用紙に記録し、皆で情報を共有している。				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	日常の利用者との会話を大切に、そこから本人の思いや希望を知るように努力している				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	本人からは日常の会話を通して聞いている。家族からは入居時アセスメントシートの記録をお願いしたり、面会時本人のこだわりや背景などについて聞いている。			○	入居時に、職員は利用者や家族から、アセスメントシートに沿って生活歴などを聞き取るほか、病院や介護サービス事業所などの関係者から情報を得ている。日々の関わりの中で、利用者から新たな情報を聞くことも多く、アセスメントシートに生活歴や生活環境などを記録や追記を残すことができている。今後は、利用者一人ひとりの人物像が新入職員にも分かりやすく把握できるように、今までの生活歴や馴染みの物、好きなこと、趣味などをまとめたものを勤務歴の長い職員の意見を参考にしながら作成するなど、職員間で話し合い、さらなる利用者本位のサービス提供につながることを期待したい。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	生活リハビリや一緒に行うお手伝い等を通して、本人の今の有する力を把握するようにしている。				
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	寄り添う介護を大切に一緒に過ごす時間を持つ事で状態の把握に努めている。本人が安心や不安に思う場面は記録に残している。				
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	居室等安心できる環境でゆっくり話を傾聴。色々な対応を試すことで要因の把握に努めている。				
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	日課表を作成し情報を共有、変化や違いがある時はケースファイル・申し送りに記入、日課評の見直しもしている				
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	本人の居心地の良い場所・穏やかでいられる場所を想定し検討している			◎	事業所では、健康状態や心身機能、環境因子など、利用者の状況を把握することができるICFシートにまとめ、課題を分析している。また、把握した情報をもとに職員間で話し合い、利用者にとって何が必要で、何を求めているのかを利用者の目線で検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	本人や家族の思いを尊重したうえで本人にとって何が大切で必要なのか、ケアカン等で確認、検討している。				
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	ケアカンファレンスを通して議論を積み重ね、その時々課題を明らかにしている。				

愛媛県グループホーム元気家

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人のニーズをしっかり把握する事で支援内容を決め本人が穏やかに生活できるような内容にしている				利用者がより良く過ごせるように、課題や日々のサービス内容を利用者や家族、職員、関係者を交えて話し合いをしている。家族や医師などの関係者が参加できない場合は、事前に意見を聞くこともある。また、利用者がカンファレンスに参加し、直接要望などを伝えることもある。さらに、介護計画は、利用者や家族の希望や意見を反映し、話し合った意見を参考にしながら、各ユニットの計画作成担当者が作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	カンファレンスやケアプラン見直しの際、本人や家族・関係者等に話し希望を聞き、その意見をプランに反映するように努めている。	◎		◎	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	家族の関わりや慣れ親しんだ暮らし方を把握し介護計画に反映する事で、そのまま継続出来るよう努めている。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	コロナ感染拡大の影響もあり一部の利用者しか協力体制は盛り込まれていない。地域の人達とは殆どない				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	ケアカンファレンスの議事録を閲覧したり日々ケアプランの評価表を記録チェックする事で内容を把握出来ている			◎	ケアプラン実施評価表にサービス内容を記載し、職員は介護計画の内容を常時確認することができる。介護計画のサービス内容の実施時には、経過記録に下線を引くことで、職員はサービスの実施状況を確認することができるになっている。また、職員の気づきやアイデアは記録に残すほか、口頭でも伝えて職員間で共有している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	実践した内容は結果も含め経過記録に記入する事で職員間で情報を把握、カンファレンスの際評価表を参考にすることで日々の支援に繋げている。			◎	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	日々の暮らし方、会話、身体状況や感情など支援した具体的な内容の記載は出来ている。			○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	職員が気付いた事は記録し、より良い方法を考えたりその結果を申し送りノートや経過記録の記録している			○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	本人の体調や状況により介護計画の期間を決めている。期間に応じて見直し出来ている。			◎	介護計画の目標期間等に合わせて、定期的に介護計画の見直しをしている。毎月カンファレンスの中で、利用者一人ひとりの現状確認などのモニタリングを職員間で行うとともに、6か月に1回評価をしている。日々の利用者の状態を、申し送り時などにカンファレンスで話し合うことや気づいたことをすぐに職員一人ひとりが書き留めておけるように、前もってカンファレンス用紙を職員が手に取りやすい場所に置いている。また、利用者の状態に変化があった場合にはその都度話し合い、現状に合った介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	毎月全体カンファレンスを行い記録、参加できなかった職員も確認できるようにしている			◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	骨折や精神的な不安定等体調や状態の変化があった場合は現状に即した新たな介護計画を作成している。その際家族や主治医の意見を取り入れている。			◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	定期的に職員会やミーティングを開催、緊急案件がある場合はその都度会議を開催し課題解決に努めている。			◎	毎月、ユニット毎でカンファレンスを実施し、利用者の状態や課題などの話し合いをしている。また、毎日申し送りを実施するほか、緊急案件などがある場合には、必要に応じて話し合いの場を設け、利用者の課題解決に努めている。また、参加できなかった職員には、会議の議事録等を確認してもらっている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	普段から職員間のコミュニケーションが取れており活発な意見交換が出来ている。また司会と記録の役割を決め、スムーズに会議が進行するようにしている。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	早めに会議の日程を決め周知するようにしている。夜勤者の参加が難しい。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	議事録で記録に残し内容確認が出来るようにしている。補足が必要な場合は口頭説明行なっている。			◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	申し送りノートやホワイトボードを使用。細かい内容、急ぐ内容と使い分け情報共有に努めている。			◎	事業所では、毎日申し送りを実施するほか、重要度合に応じて、口頭や申し送りノート、ホワイトボードの記載などを使い分け、職員間で情報を確認してもらいやすいよう工夫している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	ホワイトボード、申し送りノート、経過記録、口頭での申し送りと、どこに何を記載するかを決め全ての職員が情報共有出来る様にしている。	◎			

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	本人とよく会話する事で把握に努め、実現可能か話し合いや検討を行い実現出来るよう努力をしている。				利用者に食べたいメニューを聞いたり、毎日の衣服選びやお茶の時間のどの飲み物にするかの声かけをしたりするなど、職員は利用者自身に選んでもらい、日常的に自己決定できるよう支援している。また、職員は利用者一人ひとりに寄り添いながら、楽しそうな表情や会話を引き出せるよう努めている。訪問調査日には、山のことや野球の話をしたり、テレビを見たりするなど、利用者一人ひとりが好きなことを楽しみながら過ごす様子を窺うことができた。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	料理や飲み物、家事やレク、更衣など日々、様々な場面で選択の機会を作っている。			◎	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	ゆっくり傾聴したり本人が理解しやすい表現や言い回し・ジェスチャー等で対応、気持ちを表しやすい環境を整えるよう支援している。				
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	本人の生活ペースや好みの習慣等を把握、本人の希望する生活が送れる様努めている。また介護計画に組み込み同じ支援が行えるようにしている。				
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	本人の好きな事や興味のある話題を把握し提供。楽しく会話する時間を作っている。			◎	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	利用者と同じ向き姿勢を忘れず「今どうしたいのか」をくみ取る支援に努めている				
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	研修やケアカンファレンスで話し合いを行い学んでいるスピーチロックに関しての月間目標を立て実施・評価を行い、見直しが必要な場合は話し合いを行っている	◎	◎	◎	職員は、社内研修会などで人権や尊厳などを学び、声かけなどで利用者の行動を抑制することがないよう、意識した対応をしている。事業所では、ユニット毎に月間目標を立てて取り組んでおり、スピーチロックの禁止などに職員間で取り組み、成果を出すことができている。現在は、「利用者の生活リズムを大切にする」などの目標を立てて取り組んでいる。また、言葉が聞き取りづらい利用者には、つい大きな声を職員が出してしまうこともあるが、あからさまな声かけにならないように注意している。さらに、職員は利用者の居室をプライベートな空間であることを理解して、入室時にはノックや声かけなどをして入室できるよう努めている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	本人の気持ちになり敬意を払った言葉遣いや対応が出来るよう努めている。職員同士の気づきを共有し気になる事は定期的に意見交換し改善している			○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	介助の際、扉を開めたり肌が露出しない様配慮を行い利用者によっては同性介助を行っている				
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室は利用者専用の場所と理解し勝手に入室しない様にしている。入室の際は必ずノックをし入室する理由を話し本人の許可を頂いて入室している。			○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	研修会で学習、職員会等で話し合いを行い職員は厳守している。				
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	家事に積極的に参加してもらい感謝の気持ちや言葉をその都度伝えている。また知らない事や料理を教えてもらう等良い関係性が築けている。				職員は利用者同士の関係性や性格を理解して、トラブルが起こらないよう配慮するほか、孤立しないような声かけなどの対応をしている。また、リビングの配席にも配慮し、職員や他の利用者と会話をしたい利用者や、ゆっくり一人でテレビが見たい利用者などの要望に合わせて、一人ひとりのペースで過ごせるよう支援している。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者同士が助け合い生き生きとした表情を見る事で支え合って生きていく事の大切さを理解している				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	利用者の性格や好み、持っている力や利用者同士の関係を把握することに努めている。それにより席を決め家事や会話がしやすい環境を作ったり、耳が聞こえにくい利用者が孤立しないよう職員が側に座り会話を取り持ったりと配慮している。			◎	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルの際はお互いの話しをよく聞き解決策を見つける様努めている。他利用者が不安な思いをしない様居室で話を聞き、気分転換出来るよう配慮している。				

愛媛県グループホーム元気家

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係 継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	本人に直接聞いたり面会に来られた家族にお聞きする時間をつくる等して把握できている。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	本人との日々の会話や家族・友人から話をきく事で地域との関係や音住んでいた場所、馴染みの店等把握している。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	コロナの関係で外出や面会の機会が少なくなっているが、行きつけの美容院やお墓詣り等、本人の希望を家族に伝え家族の協力で実現出来ている。また友人に手紙を出す支援なども行っている				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	×	現在面会時間や飲食が出来ない等いろいろな制限がある為、出来ない				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	現在は職員と一緒に庭や近くの川沿いの散歩しか外出出来ない。 場所や時間が固定化し本人の希望に添ったものにはなっていないがコロナの関係で希望の場所への外出は難しい	△	○	△	現在のコロナ禍において、事業所では外出制限等を設けているため、外出できる機会は減少している。コロナ禍前は、個別での買い物や外食などにも出かけることができていたが、現在は自粛している。現在は、事業所周辺は川沿いの道をゆっくり散歩する程度に留まっているが、職員は重度の利用者も含めて事業所の外に出てもらい、外気に触れたり景色を見て楽しんでもらったりできるよう、心がけて取り組んでいる。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	地域の人や認知症サポーターの協力体制が今のところない。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	お天気や本人の体調がよい時、車椅子で散歩に出かけている。			○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	本人の行きたい場所や希望を把握し家族へ伝える取り組みを行っている。現在外出自体難しいが、外出出来るようになったら実施出来るように調整している				
14	心身機能の維持、 向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	ミーティングやケアカンファレンスの場で現状の確認を行ったり何故そうなるのか、また要因とケアの方向性等も含めて話し合いを重ね情報の共有を行っている。				職員の思いで、待つことができずについ手を出したくなる場面も見られるが、利用者のできることやできそうなことを見極めて、見守りや待つ介護に努めている。また、日常生活の中で生活リハビリなどを取り入れながら、職員は利用者の心身機能の維持や、向上が図れるよう努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	認知症の人の身体面の機能低下は学習し理解している。本人の身体状況にあった支援をしたり生活リハビリやリハビリ体操・口腔リハビリを毎日行う事で機能低下を防ぐ事が出来るよう取り組んでいる。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	本人の持っている力を活かす事が出来るよう側で見守り「待つ介護」を実践、本人が出来たと思えるよう配慮しながら寄り添い支援している	○		◎	
15	役割、楽しみごと、 気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	毎日の生活の中で会話や家事やレクと一緒にいる事で本人の楽しみや役割・気持ちを把握するよう努めている				調理の下ごしらえや後片付け、洗濯物たたみ、モップ掛けなど、職員は利用者に役割や出番づくりができるよう支援している。利用者に手伝ってもらった場合には、職員は、「ありがとうございます」などの感謝の気持ちを伝えている。また、利用者に身体状態の変化があり、以前していた掃除機での掃除ができなくなっても、職員は車いすの使用でも現状でできる手すり拭きなどを見つけ、掃除することを継続してもらっている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	出来ない所を傍らでサポートすることで、本人は役割を持って生活している思ってもらえるよう支援している。自信を持ち満足感を感じる事が出来るように取り組んでいる。	◎	◎	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	現在外出や外部の人との接触を行っていない				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみや おしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つとらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	普段の会話や洋服の選択から、好きな色や洋服の着方、こだわりを把握するように努めている。				着替え時の衣類など、利用者に選んでもらえるよう支援している。目の見えにくい利用者にも、声かけをして選んでもらうことができている。また、整容の乱れや汚れが見られる場合には、利用者の気持ちを配慮しながら、声かけや対応をしている。さらに、ベッド上で過ごすことが多い利用者にも、離床時は整容し、好みの衣服を着用するようにしている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	本人の好みを考慮しながら、一緒に洋服や持ち物を選んだり気に入った髪型になるよう支援している。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	自己決定がしやすいよう声掛けを工夫したり一緒に選んだりしながら本人の気持ちにそえるよう支援している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	外出や行事、面会時などは、本人の好みにあった物や本人に似合う服装を用意し着用してもらっている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	声掛けに配慮しながら、プライドを傷つけない介助を心掛けている。自分で出来る事はしてもらったり洋服の汚れ等は居室に誘導、更衣している。	◎	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	本人に希望する店がある場合は、家族の協力を得て望む店に行くようにしている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	日中は本人の好きな服装を用意し更衣してもらうことで楽しく一日を過ごせるよう支援を行っている。			◎	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	料理の音や匂いが脳や食欲を刺激し、昔の記憶を思いおこしたり生きる上で活力になる事を理解している。				利用者のリクエストメニューや旬の食材を取り入れながら、職員が献立を作成している。コロナ禍以前は、利用者と一緒に食材の買い出しに出かけていたが、現在は職員のみで、週2回買い物に行っている。調理の下ごしらえや後片付けなどを利用者と一緒に手伝ってもらいながら、職員が調理している。若い職員は、料理本やSNSのクックパッドを見ながら、調理をすることもある。アレルギーや食べやすい食事形態にも、利用者に応じて柔軟に対応している。食器類は、使い慣れた物や使いやすい物を使用している。以前は利用者と一緒の食卓を囲み、同じメニューを食べることができていたが、現在のコロナ禍において、職員は利用者と少し距離を取り、会話や介助、見守りをしながら食事を摂っている。また、リビングに面したキッチンからは、重度な利用者も調理の音や匂いが感じられるほか、職員がその日のメニューを伝えるなど、食事の雰囲気を楽しむことができる。さらに、栄養バランスや利用者の食事摂取量、食べやすさなど、職員間で話し合うことができている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	献立作りに参加、料理の下ごしらえや胡麻すり等、出来る事は手伝ってもらっている。下膳や食器拭き、台拭き等も参加してもらっている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	毎回手伝ってもらいお礼を言うたび笑顔になる。ここでの役割を見つめ自分の仕事の事と認識し積極的に取り組む事で自信につながっている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	利用者其々の好きな食べ物や苦手な食べ物を把握。食べ物のアレルギーの有無に関しては個人ファイルの既往症のページに明記して情報共有している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	旬の食材を使うよう心掛け季節感を感じてもらっている。誕生日や季節行事の時は行事食を作り、昔懐かしい料理も教えてもらいながら作っている。			◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いどりや器の工夫等)	○	献立は同じ物にしているが、体調によってお粥や消化の良い物に変更している。寒天ゼリーや野菜の種類を増やす事で彩りの工夫や便秘予防に努めている。嚥下状態を専門医に診てもらい食事形態を決めている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	食べる形態や持ちやすさ、手の大きさなどを考慮して食器を選び使用している。			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	コロナ感染予防の為、現在は距離を少しあけて見守りしながら同じ物を食べている。食器の入れ替え・声掛け・食べこぼしの片付け等のサポートは引き続き行ない会話する時間もあるべくしている。			◎	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	調理中の匂いや音をきく事が出来る環境で、今日の献立の話をしたり好きな物や得意料理、料理の作り方を聞いたり楽しい時間になる様支援している。	◎		◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	日々の状態や食事を観察記録、栄養バランスが足りない場合は主治医と相談し栄養補助食品を併用。水分摂取が少ない場合はお茶ゼリーなどで補っている。				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	食事量が少ない場合は食べやすい形態(ワンプレートや小分け)にしたり本人の好きな物を献立に入れている。水分摂取に関してはどのくらいゼリーにした量や少量にし出す回数を増やす等工夫し取り組んでいる。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	週単位で献立を立てるので偏りは少ない。栄養バランス調理方法については職員間で話し合っている。栄養バランスやカロリー表示のある料理本を参考にしている。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	週2回食材の買い出しに行き新鮮な食材を使用している。調理用具は毎日消毒除菌を行い衛生管理に努めている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	口の筋力の衰えや汚れが誤嚥性肺炎の原因という事を知っており口腔ケアの重要性を十分理解している。またホールにポスターを貼り、全員に周知している。				定期的に、事業所には訪問歯科の往診があるほか、異常が見られた場合には迅速に歯科医の受診につなげている。管理者は、「口から食べることが大切である」と考えているとともに、職員も口腔ケアの大切さや身体への影響も理解しており、毎日の口腔ケアに取り組んでいる。また、定期的に職員は、自分で歯磨きなどができる利用者も含めて、利用者全員の口腔内の状況を把握することができている。また、毎週歯科医の訪問があり、摂食嚥下障害のある利用者のリハビリを行っている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	定期的に訪問歯科医の検診を行い口の健康状態をチェック、情報共有している。また毎食後の口腔ケアで状態の把握を行っている。			◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	訪問歯科医に利用者にあった歯ブラシの選び方やケアについて学び、毎日の口腔ケアで実践している。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	出来る所は本人にしてみせ、洗い残しや入れ歯洗浄液につける等出来ない部分を支援している。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い支援している。個々の利用者に必要な見守りや声掛け、歯ブラシやコップの準備等必要な支援を日常的に行っている。			◎	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	◎	その都度状態を確認、家族と相談し歯科医の受診や往診の対応をとっている。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	トイレで排泄する行為は、本人の意欲や自信に繋がり、身体機能だけでなく生きる活力になるという事を理解している。また紙パンツ類使用が本人にとってダメージになりうるという事も理解している。				事業所には、常時おむつを使用している利用者はおらず、一人ひとりの状態やタイミング合わせて、職員は声かけやトイレ誘導などの支援をしている。リハビリパンツを使用している利用者も多く、肌触りや自立心に配慮するなど、なるべく布パンツを着用して生活してもらったり、職員間で話し合いながら、パッドなどの排泄用品の使用が減らせたりできるよう努めている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	便秘になる原因や弊害について理解出来ている。社内勉強会でも便秘や便秘薬について学んでいる。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	それぞれ記録に残し把握している。排便の兆候なども記録情報共有している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	個々の排泄パターンや身体機能の状況に合わせて必要性や適切性を考慮し決定している。決定後も常にミーティングやケアカンファレンスの場で見直しを行っている。	◎		◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	主治医とも相談しながら要因や誘因を探っている。またミーティング等で改善策を話し合い改善にむけた取り組みを行っている。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	24時間排泄チェック表を記入、個々の排泄パターンを把握。パターンに合わせて早めの声掛けを行っている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方向的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	排泄量や排泄パターン、本人の身体機能を考慮し選択している。意思がはっきりしている利用者には本人の希望をきき、なるべく希望にそったものになっている。必要性や選択理由、本人の意思をふまえ、その都度家族とも相談している。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	肌が破れやすい利用者は、下剤服薬時以外は布パンツにする等状態に合わせて使い分けしている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	細目に水分補給を促したりおやつに寒天ゼリーを用意。ヨーグルトや野菜多めの献立にする等、日々の食生活に配慮している。また散歩やリハビリ体操など行う事で自然排便を促す取り組みを行っている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	入浴の時間帯はほぼ決まっているが必要に応じてそれ以外の時間にも対応している。入浴の仕方や入浴時間は体調面に問題がなければ希望どおりに支援している	◎		○	週2～3回を基本として、利用者は入浴することができる。管理者は、「入浴の回数や時間など、利用者から要望があれば、できる限り対応していきたい」と考えて支援している。また、好みや使い慣れたシャンプーや石けんを使用している利用者も多く、職員は入浴が楽しみになるよう努めている。さらに、個別浴槽のため、湯船に浸かることが困難な利用者には、足浴をしながらシャワーでお湯を浴びてもらうなど、温まってもらえるよう支援している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分に入浴できるよう支援している。	○	入浴剤を用意し温泉気分を楽しんでもらったり、ゆず湯等で季節を感じてもらったりしている。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	本人の気持ちやもっている力を考慮しながら、出来ない所を本人の負担にならないよう支援している。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	会話を通して原因や理由を把握。入浴の声掛けを工夫したり散歩などのタイミングに合わせた取り組みを行っている。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	毎日測定するバイタルや体調に合わせて入浴の可否を判断。入浴の前にはバイタルを再測、入浴後も体調に変わりないか状態の確認を行っている。				

愛媛県グループホーム元気家

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	夜勤者が睡眠の状態を記録し睡眠パターンを把握、職員間で情報を共有している。				入居前から継続して服用している利用者もいるものの、主治医と相談や連携を計りながら対応している。事業所では、日中の過ごし方や対応を工夫し、利用者が減薬できるよう取り組んでいる。また、生活習慣に配慮しながら、生活リズムを整えるなど、現在夜間に良眠できている利用者が多い。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	睡眠状態を記入し、排便の有無や日常の過ごし方など原因の把握に努めている。居室の環境を整え日中の活動量を増やす等生活リズムを作るよう努めている				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	安易に薬に頼らず不眠の原因を把握するようにしている。その上で原因を取り除いたり生活リズムを取り戻せる様努めている。色々な取り組みを行い改善が見られない場合主治医や家族と相談し対応を決めている。			◎	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	利用者の生活ペースで休息や昼寝をしてもらい、居室で過ごす時はカーテンや室温など環境を整えている。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	本人が電話を希望する時は電話をかけている。会話が難しい場合は職員が内容を伝えスムーズにいこう支援、手紙も出来ない部分を支援している				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	宛名書きなど本人が出来ない所をお手伝いし手紙や葉書を出すよう促したり支援をしている。自分で電話をかけた利用者には側で見守りお手伝いしている。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	電話の子機を使用。本人の希望する場所(居室など)でゆっくり会話出来る様にしている。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	届いた手紙はいつでも見る事が出来るよう台紙に貼り壁に飾っている。また目に付く所に整理している。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	家族には電話をかける事に関して説明協力を得ている電話をかける時間帯など話し合いなるべく本人の意向に沿えるよう支援、現在はタブレットも併用している				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	好きな物を選びお金を支払う行為が、本人にとって自信と満足感を得、社会との繋がりを持つ事と理解している。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	×	現在買い物などの外出は行っていない。職員が希望を聞き代わりに対応している				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	現在は移動販売も中止している				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	本人の希望を聞いた上で家族と相談し、支援の在り方を決めている。お金を所持する事で安心する場合は少額のお金を馴染みの財布に入れ所持してもらっている。家族の意向で所持しない利用者が圧倒的に多い。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	△	お金を所持している利用者は、所持方法について本人や家族と相談、安心して所持出来る様支援している。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	入居時に預かり金の管理方法について説明し同意を得ている。毎月預り金残高報告書を作成し領収証と一緒に家族に郵送している。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	本人や家族から要望があった場合は検討し、出来る範囲柔軟な対応に努めている。	◎		◎	家族とお墓参りに出かけたり、行きつけの美容院に通ったりするなど、職員は利用者や家族の希望のほか、その時々ニーズに合わせて、柔軟に対応をしている。また、コロナ禍以前は、利用者の要望に応じて、マッサージなどの外部サービスを取り入れることができていた。

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	塀がなく日中は玄関の施錠をしていない。入口は声掛けしやすい様インタホーンを設置、文章で表示もしている	◎	◎	○	散歩ができる川沿いに事業所はあり、建物に分かりやすく事業所名が表示されている。また、玄関を入るとすぐ事務所があり、来訪者にも声をかけやすくなっている。また、玄関周辺はすっきりと整理整頓されている。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。（天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそごような設えになっていないか等。）	○	家庭のリビングのようにテレビ等を置き生活感を取り入れた空間になっている。壁面には利用者が協力して作成した貼り絵を飾り、季節を感じ楽しんでもらえるような工夫をしている。	◎	◎	○	共用空間にある対面キッチンから、職員はリビングにいる利用者の様子を見渡すことができ、コミュニケーションも取りやすい状況となっている。利用者と一緒に作った季節に応じた貼り絵や、書道が得意な利用者の作品などが飾られ、温かみのある空間となっている。また、事業所では、利用者にエアコンの風が直接当たらないように吹き出し口を工夫し、快適に過ごせるようにしている。さらに、廊下にはベンチを置き、利用者が歩行途中に座って休憩できるよう配慮している。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	朝と夜掃除をし清潔な環境の保持に努めている。見守りをしながら利用者と一緒に掃除している。			◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激（生活感や季節感を感じるもの）を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	テレビや新聞を身近に置き、家と同じような生活が送れる様になっている。季節を感じる事が出来るよう展示物や花を飾り懐かしい音楽を流したりして居心地のよい空間作りを工夫している。			○	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	気の合う利用者同士が話しかけやすいように一時的に座席を交える等柔軟に対応している。ホールや居室に椅子を用意し好きな時に一人でゆっくり過ごせる様になっている。				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	扉を開めると独立した作りになっているので、共有空間からは直接見えないようになっている。				
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	本人や家族と相談し、馴染みの家具や道具、写真や絵を飾るなど居心地のよい空間になるよう工夫している	◎		○	居室には、ベッドや押し入れ、エアコンが備え付けられている。使い慣れた家具や仏壇、お気に入りの物を持ち込むことができ、利用者に合わせた居心地良い空間づくりができています。また、事業所横の川沿いを通る知人と、居室の窓辺から話すのを楽しみにしている利用者もいる。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	トイレや浴室は大きく表示し、居室には利用者の目線の高さ(車椅子の方には低い位置)に表れを貼り、迷いにくいよう配慮、本人の自立を妨げないようにしている。			○	事業所では、利用者一人ひとりの目線の高さに配慮し、分かりやすいように居室の入り口の目線の高さに合わせて利用者と担当職員の名前を表示している。また、廊下の取りやすい場所に新聞を置き、新聞を呼んでくれる利用者もいる。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	持ち物に名前を書いたり居室入口に表れを貼ったり間違いを防ぐよう工夫している。新たな問題が見つかった場合はその都度対策を検討している。				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。（ぼうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等）	○	新聞や雑誌などいつでも手に取り見ることが出来る様にしている。塗り絵やパズルなども目に見える場所に置き、利用者自ら手に取り楽しめるようにしている				
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。（鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等）	○	代表者、すべての職員は施錠する事に関して利用者及びほす心理的な弊害について勉強、理解している。	◎	◎	△	事業所では、日中玄関は施錠していない。普段は、両ユニット入り口も開放しているが、訪問調査日の数日前に入居された利用者の帰宅願望が強く見られ、職員間で危険性などを検討したうえで、家族に相談して一時的に施錠し、様子を見ている。また、職員は鍵をかけることも弊害を理解しており、なるべく利用者が落ち着いて生活できるように、声かけなどの対応をしている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	施錠しない自由な生活の大切さについて説明は行っているが自宅生活している時一人で外出、迷ったり怪我をした経験のある家族は不安が大きい。話し合いは行っている。				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している（外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等）。	○	玄関にドアチャイムを付けたり職員間の声掛けの強化、また出入口に近い場所に職員が座る等工夫し、日中は施錠していない。夜間は防犯を考え施錠している。				

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	個人のケースファイルに既往歴やアレルギーの有無など留意事項を記載したものをファイルし把握出来ている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	毎日バイタルを測定している。日々の生活の中で食事や水分の摂取量、排泄助動、入浴時の身体の観察などにより異常を早期発見出来るよう努めている。異常のサインを経過記録と申し送りノートに記載、情報共有している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	主治医や看護師に24時間対応で相談できる体制をとっている。毎週健康観察に訪れる看護士に小さな事でも相談し、重度化の防止や専門医、入院など医療連携が上手くとれるよう努力している。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	入居前の受療状況はアセスメントシートや家族の聞き取りで把握。受診の際は本人・家族と相談。出来る限り希望に添うように支援している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	体調、病状、車椅子使用による移動手段等考慮し本人や家族と相談。かかりつけ医を決めている。かかりつけ医を変えたくない場合は本人や家族の意向を尊重。適切な医療が受けられる様支援している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	月2回の往診の結果や体調、状態については、変化がない場合も含め家族に報告、専門医受診の必要性がある場合は、その都度家族と相談し受診の支援を行っている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院時は、本人の心身機能や生活習慣等を含む情報提供を行っている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	入院時は病院に出向き、本人の病状や状態を把握。主治医や担当看護師、相談員等関係者と情報交換を行っている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	病棟の連携室と交流を持ち情報交換を行っている。病院主催の公開講座に参加、関係作りに努めている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	週に一度、看護師が来所。その際、気になった事を相談。気をつける事や対処の方法等についてもアドバイスを受けている。 ○ 夜間の急な発熱や体調変化の場合も、その都度相談し主治医や救急病院などへついている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	訪問看護ステーション、主治医ともに24時間、いつでも相談できる体制になっている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	個々の健康管理を毎日行い記録する事で小さな体調の変化に気づき、職員間の情報共有が出来ている。それを伝える事で早期発見・治療につなげている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	個々のケースファイルに服薬中の薬情をファイルし、目的や副作用など把握に努めている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	利用者の嚥下の状態・生活パターンを考慮し主治医と相談。確実に服薬出来る様に取り組んでいる。また薬に日付けを記入。職員が確認しながら服薬支援を行っている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	日々の状態を経過記録に記入。体調の変化等を日常的に確認している。また薬の処方が変わった場合は特に注意し様子観察、主治医や薬剤師に相談している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	体調など状態を経過記録に記録、気になる事は往診時に使用する往診ボードに書き出し、情報提供を行っている。				

愛媛県グループホーム元気家

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	入居時重要事項説明書を通して説明し、本人・家族の意向を確認している。重度化した場合、変化の段階ごとに主治医も交え相談。意向を確認、共有している。				事業所には、「看取りに関する指針」があり、入居時に重要事項と合わせて利用者や家族に説明し、意向を確認している。重度化した場合には、利用者と家族の意向を踏まえて、段階に応じて医師や看護師、職員がその都度話し合い、方針を共有しながら安心して終末期を迎えられるよう支援している。また、訪問調査を実施した9月にも、2名の看取り介護を経験している。さらに、若い職員には看取りの不安があり、看取り支援後には職員間で話し合い、気づきや思いを共有しながら振り返りをしている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	本人・家族と意向を話し合うと共に、職員間でのカンファレンスも繰り返し行っている。また主治医や訪問看護師とも情報提供を行い、全員が共有できるようにしている。	○		◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々の職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	職員の知識や技量、看取りケアについての思いを個別に聞き、どこまでの支援が出来るか判断している。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	週末期を迎えた利用者の対応については介護職では出来ない事も増えてくる為「できること・できないこと」や対応方針について説明理解を得ている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	本人が最後まで安楽に過ごす事が出来るよう、医療関係者・家族と密に連絡をとり支援していく体制を整えている。また状態に合わせた介護計画の見直しや家族と過ごす時間の確保など、出来るだけ希望に添えるよう努めている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	家族への連絡を密にとるよう心掛け、落ち着いた場所で家族の不安や要望、利用者への思いを傾聴、心情を理解し支えるよう努めている				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	社内外研修で学んでいる。 また社内の感染症対策マニュアルで対処方法も学んでいる。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	感染症に対する予防や対応方法・キットの使い方など定期的に学んでいる。 研修時、場面を想定し手順や訓練を行っている。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	行政から送られてきた情報や、インターネットで得た情報などを印刷し、職員に回覧、周知している。				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	行政からの情報やテレビの情報など、出来るかぎり情報収集し、随時予防に努めている。				
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	職員は手洗いやうがい、マスクの着用を心がけている。 食事の前は手の消毒を行い、外出後は手洗いとうがいを毎回行い、来訪者にも協力をお願いしている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅱ.家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	家族とは細目に連絡を取り関係の構築に努めている。本人の希望を伝えたり一緒に行動する機会を提案したりしている。				現在のコロナ禍において、家族が参加できる行事は中止しているものの、家族からの差し入れに対応するほか、居室の窓辺と事業所の川沿いの道から、距離を確保した面会にも対応をしている。管理者は、「今後の感染状況を見ながら、制限時間等を設けたうえで、ロビーで面会すること」を検討している。また、電話連絡のほか、携帯電話のショートメッセージを活用して家族と連絡を取り合うことも多い。さらに、毎月請求書の送付時に近況報告をしたり、年4回発行する「元気家便り」に、担当職員が書いた利用者の様子と写真を添えて、家族に送付することができている。加えて、毎回運営推進会議の会議録も家族に送付するなど、事業所の運営上の出来事を伝えることができている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	×	コロナ以前は面会時間に関しては柔軟に対応、居室でゆっくり過せるよう椅子や机、飲み物を用意するなどの対応を行っていたが現在は居室内の立ち入りを行ってない				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	×	季節の行事や誕生会・お花見など一緒に参加できるように声掛けを行っていたが現在は中断している	×		△	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	面会が少ない家族には電話で様子を知らせたり、ホーム便りを発送。ホーム便りに写真や担当者から最近の様子を知らせる文章などを入れ、利用者の近況がわかるようにしている。	○		◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	面会時や介護計画の説明時に家族の知りたい事や不安に感じている事、利用者を取りまく家族の事情などを把握。その事に対し出来る限り報告を行っている。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	認知症発症後の家族の関わり方や対応、病気についての理解等、家族が抱えている問題を把握し、本人とより良い関係が築いていける様支援している。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	事業所の運営上の事情や出来事に関しては文章でその都度報告、同意をもらっている。行事や職員の異動などは文章や口頭で随時報告。理解や協力を得ている。	○		◎	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	×	コロナ感染予防の為、家族同士の交流が図られる取り組みは行っていない				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	家族には体調や状態に変化がある度、起こりうるリスクについて説明、対応策と一緒に考えている。対応策は、なるべく本人や家族の意向を聞きながら決めている。				
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	契約内容についてはその都度、具体的な説明を行い、理解納得してもらっている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	退去に至った過程を具体的に説明し納得してもらっている。退去先に関しては、本人や家族の希望に添うよう退去先の紹介を行い、本人の状況に適した場所に移れるよう支援している。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	契約時及び料金改定時は、具体的な内容を文書で示し説明。同意を得ている。				

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	設立段階から町内会に参加、地域清掃や町内行事に参加、交流を深める事で理解を図るよう努力している。	/	◎	/	コロナ禍以前は、利用者と一緒に文化祭や町内清掃などの地域行事に積極的に参加し、地域住民と交流することができていた。秋祭りの際には、事業所を休憩所として活用してもらい、地域の子ども達も立ち寄ることができていた。現在のコロナ禍において地域行事が中止となり、日常的に行う挨拶程度に留まっている。また、管理者は、「コロナ禍が収束すれば、以前のように地域住民と交流を再開したい」と考え、行事などの交流を検討している。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。（日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等）	△	日常的な挨拶は行っている。 町内清掃や秋祭り、文化祭など参加し交流を深めていたが現在町内の行事は全て中止になっている	/	◎	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	近隣の人や広報委員の人など、少しずつではあるが増えている。	/	/	/	
		d	地域の人気が気軽に立ち寄ったり遊びに来たりしている。	△	少数ではあるが散歩の途中休憩をとる方が少しずつ増えている。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	挨拶を交わすなど日常的なおつきあいはしている。 回覧板での行き来や、野菜や果物を頂いたり等の交流はある。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。（日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援）	×	現在は近隣の方やボランティアの訪問等受け入れていない。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	現在、地域資源の活用は少ない。 地域資源の把握に努め、豊かな暮らしを楽しんでもらえる様支援していきたい。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている（公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等）。	×	町内の公民館や近隣の福祉施設等には繋がりがあるがスーパーやコンビニ、飲食店などは近くに無く、働きかけは出ていない。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	△	令和2年度・今年度とも運営推進会議は文書開催を行っている。意見やアドバイスは頂いている	○	/	○	現在のコロナ禍において、運営推進会議は文書開催となっているものの、事前に参加メンバーから意見を聞くことができています。また、会議では事業所の行事や活動状況、サービスの評価結果や取組み状況を報告するほか、利用者の課題などについて、参加者と意見交換をしている。さらに、会議録などの報告は、参加メンバーのほか、全ての家族に送付することができています。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況（自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等）について報告している。	○	前回の会議の助言や要望に対しての取り組みを報告助言を頂いている。目標達成計画にあげた地域との繋がりを深める取り組みや災害時の対応方法についても現在の状況を報告している。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	前回の会議で出た意見や助言に対しての取り組み内容を報告。解決していない課題や新たな課題に対して率直な意見を頂き、サービス向上に努めている。	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	テーマに合わせ参加メンバーの対象を増やす等の配慮を行っている。日程は会議の終わりに次回の日程を決め参加メンバーの日程調整がしやすいように配慮している。	/	◎	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	議事録を玄関入口の掲示板に張り出している。 面会を行っていない為議事録を郵送している	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅳ.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	全員で考えた理念を掲げ共通認識を持つ事が出来ている。理念を念頭に介護計画を立てる事で日常的に理念に基づいた介護が実践出来るよう努めている。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	玄関の入口に掲示、家族には入居時や介護計画の説明の際伝えているが、伝えられていない感がある。	○	○		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	職員の力量を把握し、その力量に合った講習があれば受講出来るよう紹介や調整を行っている				代表者は市内において幅広く介護サービス事業を運営しているため、事業所に来訪する機会は少ないないが、毎月実施する同法人内の系列事業所の管理者を集めた管理者会議には参加し、意見交換をしている。管理者は、職員から出された意見や要望も、必要に応じて代表者に伝えることができています。また、法人・事業所として、定期的に社内研修会を開催し、職員のスキルアップに努めている。また、事業所の開設当初から働く職員も多く、安心して働くことができています。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	職員が学びたい内容の社内研修会を定期的に行いスキルアップに取り組んでいる。受けたい研修がある場合は勤務の日程を調整するなどの取り組みを行っている。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	出来る範囲で対応している。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	グループホーム交流会や他グループホームとの交流や勉強会は引き続き行っているが、コロナ下の現在、以前より少なくなっている				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	出来る範囲で取り組んでいる。	◎	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	高齢者虐待防止法について研修などで学習している。何が虐待にあたるのか、不適切なケアについても職員会で話し合っている。				虐待や不適切なケアについて、職員は社内研修会などで学び、理解している。日々の業務において、事業所では職員自身や職員間で振り返り、考える機会を設けている。また、不適切なケアを発見した場合の対応方法や手順について、職員全員に周知している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	気になった事はその都度話し合っている。またミーティングや職員会、カンファレンスで話し合う機会をつくっている。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃ごされることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	小さな事でも虐待に繋がる可能性がある事に関しては、その都度話し合いを行い防ぐようにしている。対応方法や手順について学習している。			◎	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	日々注意を払い点検している。状況によっては個人面談を行い、ストレスを取り除くよう努めている。				
44	身体拘束をしない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	身体拘束しないケアについて周知している。また日々話し合いを行い勉強会も行っている。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	定期的に話し合う機会をつくっている。またそれに繋がるかもしれない事例に関しては、その都度全員で話し合いを行っている。				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	家族から要望があった場合、考えられる弊害を説明、事業所の取り組みについて説明をしている。それに代わる対応策を提案したり話し合いを重ねる事で家族の理解を得るように努めている。				

愛媛県グループホーム元気家

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する 制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	○	制度について学習し理解している。 また制度を利用している利用者が居るためカンファレンスの際勉強もやっている。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	利用者や家族の現状や要望を理解したうえで、その内容にあった情報提供を行ったり相談にのったり等の支援を行っている。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	市役所や地域包括支援センター、司法書士等と連携体制を築いており、必要な場合は相談、助言を頂いている。				
46	急変や事故発生時の 備え・事故防止の 取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	急変や事故発生に備えて急変時のマニュアルを作成、職員がすぐ手に入る事が出来る場所におき周知している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	社内外の研修会に参加し実践力を身につけている。 初期対応の訓練は行っているが回数は少ない。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事故が発生した場合は事故報告書を作成。原因や対策を明記。対策案について話し合いを行っている。 ヒヤリハット・事故報告書共に回覧し事故を未然に防ぎ繰り返さないよう努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	個々の考えられるリスクについて日々検討し事故防止に努め申し送りノートなどで情報共有している。必要な場合は介護計画に追加、事故防止に努めている。				
47	苦情への迅速な対応と 改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	職員は苦情対応マニュアルの内容を理解している。 また対応方法については速やかに対応、対策を話し合う体制をつくっている。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情が寄せられた場合には、速やかに報告し手順にしたがって対応するよう体制を整えている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情に対して速やかに対策案を検討、回答するとともにサービス改善の経過や結果について納得を得られる様話し合う体制を整えている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	日々の様子や会話から、本人の意見や要望を把握するよう努めている。また必要な場合は個別に話しを聞く機会をつくっている。			◎	職員は、利用者の話しの傾聴やコミュニケーションの時間を大切にしており、日常的に意見や要望を聞くことも多い。家族からの意見は、面会時や電話連絡時などを活用して、聞き取りをしている。また、管理者は職員との会話できる時間を確保し、職員が安心して仕事に取り組みながら、利用者本位のサービスが提供できるよう努めている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	玄関に意見箱を設置している。 また日頃から話しやすい関係作りを行い、家族が意見や苦情、要望を話す事が出来る機会を作っている。	◎		◎	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	重要事項説明書に明記し、契約時、書面と口頭で説明。 必要に応じて随時情報提供を行う体制を作っている。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	現場に足を運び職員の意見や要望・提案を聞くようにしている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	個人面談の時間を作り職員の意見や提案を聞くようにしている。個人面談以外でもゆっくり話す時間をとり会話の中から考えや思いを把握、利用者本位の支援に繋げていく事が出来るよう努めている。			◎	

愛媛県グループホーム元気家

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	サービス評価をすることでよりよい支援を行う事が出来る と理解し、全員で自己評価に取り組んでいる。				外部評価の自己評価は、職員全員で取り組み、管理者等がまとめて作成 している。サービスの評価結果を取りまとめたものと目標達成計画は、運 営推進会議の中で報告している。また、目標達成計画などの取組み状況 も会議の中で随時報告し、参加者から意見を聞くことができている。さら に、出された意見を反映して、管理者等はサービスの向上に活かせるよう 努めている。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	課題を明らかにする事で、職員の意識を高めたり課題に そった学習計画を立て、職員の知識や技術の向上を図る 取り組みを行っている。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	出来る事から目標を立て、実行し、結果が得られるよう 努めている。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議で目標達成計画を報告。 それに対しての取り組みや結果を随時報告している。 助言を頂くとともに取り組みのモニターも願っている。	○	○	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	運営推進会議や職員会議などで取り組みの成果を報告。 助言や取り組み内容の検討などを行い成果を確認して いる。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	火災や様々な災害を想定した具体的な対応マニュアルを 作成しており、職員は周知している。またいつでも見る 事が出来るよう所定の場所に置いている				事業所では、様々な災害を想定した法定の避難訓練を実施しているほ か、毎月抜き打ちで避難訓練を実施し、職員の防災意識を高めている。 運営推進会議メンバーの防災士資格を持っている方から相談や助言をし ていただくとともに、近隣住民との協力体制も確保している。また、事業所 前の道路を挟んですぐに川があるため、豪雨等で川が増水した場合に は、実際に1階にいる利用者が2階に垂直避難をした経験もあり、災害発 生時の避難の対応について、職員間で課題を話し合うことができている。 さらに、事業所では非常用の食料や備蓄品を備え、ライフラインが止まっ た場合を想定した食事づくりなどを職員が実際に体験していることもあり、 利用者が食べやすい物の調理を工夫したり、必要な備蓄品などを再度確 認したりするなど、職員間で検討することを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	日中、夜間と様々な状況を想定し、避難誘導などの訓練 定期的に行い反省点などを話し合っている。また消火訓 練は毎月行っている				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	消火設備は年二回点検を行っている。 それ以外の備品などは定期的に点検を行っている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	運営推進会議などで、町内会長、民生委員の方と話し合 い協力を要請している。また近所の住民の方にも災害時 協力してもらえよう支援体制を確保している。	×	○	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	×	研修等への参加は行っているが、共同訓練等への参加 は出来ていない。今後、災害時を想定した地域のネット ワーク作りに参加したり関係各所への働きかけを行って いきたい。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	外部との取組みは現在行っていない				事業所では、地域の高齢者や家族から相談があった場合には快く対応し ている。事業所として、地区のグループホーム連絡会に参加協力するな ど、市担当者や地域包括支援センター、民生委員と協力を構築でき ている。また、事業所では、外国人の技能実習生の受け入れにも協力を している。さらに、管理者は地域住民が気軽に相談ができる場所となるよ う、地域に浸透していくような新たな取組みを検討している。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	民生委員の方から相談があれば窓口になっている。 電話で相談してくる場合は適切な対応に努めている。		△	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	事業所を開放したり活用は出来ていない				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	現在は行っていない。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	ケアネット、異業種交流会に参加し情報交換に努めてい る。また地域包括支援センターや他事業所と共働で勉 強会の開催を行っている。			○	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

Ⅰ.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

Ⅱ.家族との支え合い

Ⅲ.地域との支え合い

Ⅳ.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 3 年 9 月 29 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 17名
地域アンケート回答数	4名	

※事業所記入

事業所番号	松山市 第3870105721号
事業所名	グループホーム元気家
(ユニット名)	大地
記入者(管理者)	
氏 名	平野 由美
自己評価作成日	令和 3 年 9 月 5 日

【事業所理念】 一人ひとりの思いを大切に しよい信頼関係を築き 安全で楽しく穏やかな 生活が送れるように支援します	【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ・毎月行う全体ケアカンファレンスを記録・整理する事で、スタッフ全員が情報共有するとともに体調の変化や経緯がわかりやすくなった。 ・経過記録記入時に行った支援内容の実行部分に下線を入れる事で毎日の実施評価表の評価がしやすく、またモニタリングの際活用しやすくなった。 ・家族による運営推進会議や防災訓練への参加、また利用者との外出やイベントの参加などの取り組みは新型コロナウイルス感染予防の為中止。いつもの生活に戻った際もう一度取り組みたい。	【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 国道から少し入った自然が感じられる閑静な川沿いの近くに、2階建ての事業所は立地している。職員は利用者との日々の会話やかかわりを持つ時間を大切にしており、訪問調査日にはリビングや居室でリラックスした利用者の笑顔や、生き生きと活動する利用者の様子を窺うことができた。また、事業所では生活リハビリなどを取り入れ、心身機能の維持や向上に取り組むとともに、利用者の身体状況の変化が見られても、手すり拭きなどを見つけてできることを手伝ってもらうなど、利用者自身に自立を促したり、自信につなげたりするなどの支援に努めている。現在のコロナ禍において、事業所では外出や面会などの制限が設けられているものの、日常的に事業所周辺の川沿いを散歩したり、事業所内でできる夏祭りや敬老会などの季節の行事を開催したりするなど、利用者が安心して楽しみのある生活が送れるよう支援している。さらに、事業所には勤務歴の長い職員も多く、職員は安定したチームワークの中で、利用者の日々により良いケアを提供することができて
---	---	---

評価結果表

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅰ.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	会話の中で情報収集をしたりカンファレンスで話し合いを行う事で把握に努めている	◎		◎	日々の会話やかかわりを大切にして、職員は利用者の思いや希望を聞き取るほか、意思表示が難しい場合には行動パターンや表情等からくみ取るよう努めている。また、利用者の状況の変化が見られた場合には、思いや希望も変わる場合もあり、職員は話を聞きながら、思いなどの把握に努めている。さらに、把握した内容は、フェイスシートやICFシートなどに記載し、職員間で共有している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	会話が難しい場合でも行動パターンや好みなど考え検討している。				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	△	コロナ禍の為機会が少ない。以前は面会を通して家族や友人と話し合いを行っていた				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	新たな情報があった場合は経過記録に記録をしたりケアカンファレンスで話し合ったりして共有出来ている				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	カンファレンスで話し合うなどして職員一人だけの行動にならないよう留意している。				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	本人からは普段の会話を通じ、本人以外からは入所時のアセスメントや面会時の会話にて伺っている。			○	入居時に、職員は利用者や家族から、アセスメントシートに沿って生活歴などを聞き取るほか、病院や介護サービス事業所などの関係者から情報を得ている。日々の関わりの中で、利用者から新たな情報を聞くことも多く、アセスメントシートに生活歴や生活環境などを記録や追記を残すことができる。今後は、利用者一人ひとりの人物像が新入職員にも分かりやすく把握できるように、今までの生活歴や馴染みの物、好きなこと、趣味などをまとめたものを勤務歴の長い職員の意見を参考にしながら作成するなど、職員間で話し合い、さらなる利用者本位のサービス提供につながることを期待したい。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	日常生活の様子やレクリエーションなどの様子を観察する事で現状を把握している				
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	本人の表情や行動を見て把握するよう努めている。				
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	職員間で話し合い、対応を変えるなどし要因の把握に努めている。				
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	本人の好む生活パターンや日々の違いなどについて概ね把握している。				
3	チームで行うアセスメント (※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	希望、要望についての話し合い、本人の気持ち、視点で検討するよう努力している。			◎	事業所では、健康状態や心身機能、環境因子など、利用者の状況を把握することができるICFシートにまとめ、課題を分析している。また、把握した情報をもとに職員間で話し合い、利用者にとって何が必要で、何を求めているのかを利用者の目線で検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	職員のしたい支援ではなく、本人の望む暮らしのための支援について検討している。				
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	職員間で話し合い、課題を明確にする努力をしている。				

愛媛県グループホーム元気家

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人の好みや希望を反映した内容で作成されている。				利用者がより良く過ごせるように、課題や日々のサービス内容を利用者や家族、職員、関係者を交えて話し合いをしている。家族や医師などの関係者が参加できない場合は、事前に意見を聞くこともある。また、利用者がカンファレンスに参加し、直接要望などを伝えることもある。さらに、介護計画は、利用者や家族の希望や意見を反映し、話し合った意見を参考にしながら、各ユニットの計画作成担当者が作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人や関係者で話し合い、食事やレクリエーション、散歩などの楽しみや本人の生活リズムを考えて作成している。	◎		◎	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	家族との直接の関わり少ない分、職員が寄り添い関わる時間を増やす事で、以前と変わらない日々が送れるよう努めている。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	現在一部の家族のみで、地域との協力が盛り込まれたプランにはなっていない				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	カンファレンスにて意見を交換、議事録を作成回覧し職員間で情報を共有している。			◎	ケアプラン実施評価表にサービス内容を記載し、職員は介護計画の内容を常時確認することができる。介護計画のサービス内容の実施時には、経過記録に下線を引くことで、職員はサービスの実施状況を確認することができるになっている。また、職員の気づきやアイデアは記録に残すほか、口頭でも伝えて職員間で共有している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	実践した内容は結果も含め経過記録に記入する事で職員間で情報を把握、カンファレンスの際評価表を参考にする事で日々の支援に繋げている			◎	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	その時の感情、行動、身体状況、対応した支援について記録出来ている。			○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	職員が気づいた事は個別に記録出来ている 口頭でも申っている			○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	定期的に見直しを行っている。			◎	介護計画の目標期間等に合わせて、定期的に見直しをしている。毎月カンファレンスの中で、利用者一人ひとりの現状確認などのモニタリングを職員間で行うとともに、6か月に1回評価をしている。日々の利用者の状態を、申し送り時などにカンファレンスで話し合うことや気づいたことをすぐに職員一人ひとりが書き留めておけるように、前もってカンファレンス用紙を職員が手に取りやすい場所に置いている。また、利用者の状態に変化があった場合にはその都度話し合い、現状に合った介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	毎月全体のカンファレンスを行っている。			◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	介護計画期間に関わらず、見直しが必要な時は行っている。			◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	定期的に会議を開き、課題の解決に努めている。			◎	毎月、ユニット毎でカンファレンスを実施し、利用者の状態や課題などの話し合いをしている。また、毎日申し送りを実施するほか、緊急案件などがある場合には、必要に応じて話し合いの場を設け、利用者の課題解決に努めている。また、参加できなかった職員には、会議の議事録等を確認してもらっている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	職員間で話しやすい距離感が作れるなど、会議の環境作りに努めている。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	早めに会議の日程を決め周知するようにしている。 夜勤者の参加が難しい				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	議事録を作成し内容を伝えている。			◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	申し送りノートやホワイトボードを使用。細かい内容、急ぐ内容と使い分け情報共有に努めている			◎	事業所では、毎日申し送りを実施するほか、重要度合に応じて、口頭や申し送りノート、ホワイトボードの記載などを使い分け、職員間で情報を確認してもらいやすいよう工夫している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	ホワイトボードや申し送りノート、経過記録、口頭での申し送りとともに何を記録するかを決め全ての職員が情報共有出来るようにしている	◎			

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	楽しみのある毎日が送れるよう、本人の希望を把握する事と出来るだけ対応できるよう努力をしている。				利用者に食べたいメニューを聞いたり、毎日の衣服選びやお茶の時間のどの飲み物にするかの声かけをしたりするなど、職員は利用者自身に選んでもらい、日常的に自己決定できるよう支援している。また、職員は利用者一人ひとりに寄り添いながら、楽しそうな表情や会話を引き出せるよう努めている。訪問調査日には、山のことや野球の話をしたり、テレビを見たりするなど、利用者一人ひとりが好きなことを楽しみながら過ごす様子を窺うことができた。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	着たい服、好みの飲み物を複数提示するなどし、選択の場面を作っている。			◎	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	わかりやすい言い回しにしたり本人が希望を言いやすい雰囲気を作っている。				
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	本人の生活ペースや習慣を把握し、本人のリズムで生活出来るよう支援している。職員全員が同じように支援出来るよう情報共有もしている				
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	主に会話を通じて毎日の暮らしが楽しめるような関わりに努めている。			◎	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	声掛けやスキンシップ等で反応や様子を伺う事で、本人の意向に沿った生活が出来るよう支援している。				
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	勉強会を通して学んでいる。スピーチロックに関しての月間目標を立て実施・評価する事で常に意識するよう心掛けている	◎	◎	◎	職員は、社内研修会などで人権や尊厳などを学び、声かけなどで利用者の行動を抑制することがないよう、意識した対応をしている。事業所では、ユニット毎に月間目標を立てて取り組んでおり、スピーチロックの禁止などに職員間で取り組み、成果を出すことができている。現在は、「利用者の生活リズムを大切にする」などの目標を立てて取り組んでいる。また、言葉が聞き取りづらい利用者に、つい大きな声を職員が出してしまうこともあるが、あからさまな声かけにならないように注意している。さらに、職員は利用者の居室をプライベートな空間であることを理解して、入室時にはノックや声かけなどをして入室できるよう努めている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	リビングなどに居る時、周囲に配慮した声掛けを心がけているが、難聴の方には声が大きくなる事がある。			○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	出来るだけ扉を閉めタオル等を使用し行なっている。またリビングから遠いトイレへ誘導等の対応をしている。				
		d	職員は、居室は利用者専有の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室への立ち入りは本人の同意を得る声掛けを行い、必ずノックし声を掛けてからの入室に努めている。				
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	個人情報保護について職員は理解し厳守に努めている。				
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	お手伝いや利用者から教わる事に、日々感謝の気持ちを伝えている。				職員は利用者同士の関係性や性格を理解して、トラブルが起こらないよう配慮するほか、孤立しないような声かけなどの対応をしている。また、リビングの配席にも配慮し、職員や他の利用者と会話をしたい利用者や、ゆっくり一人でテレビが見たい利用者などの要望に合わせて、一人ひとりのペースで過ごせるよう支援している。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	職員が介入しなくても自ら進んで助け合う利用者の姿をみる事で大切さが理解できる				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	時には職員も中が入り、会話を広げたり分かりやすく説明する事で利用者同士のトラブルや孤立する事を防げている			◎	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	話題を変えたり、少し距離をとってもらうなどの対応をしている。				

愛媛県グループホーム元気家

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係 継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	家族やケアマネからの情報をもとに把握している。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	利用者との会話の中や家族様からの情報で把握に努めている。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	コロナ禍で外出自体を行っていないが、電話や手紙の支援を行う事で、関係が戸切内容にしている				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	×	現在面会時間や飲食が出来ない等いろいろな制限がある為出来ていない				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	現在は職員と一緒に庭や近くの川沿いの散歩しか外出出来ていない 場所や時間が固定化し本人の希望に添ったものにはなっていないがコロナの関係で希望の場所への外出は難しい	△	○	△	現在のコロナ禍において、事業所では外出制限等を設けているため、外出できる機会は減少している。コロナ禍以前は、個別での買い物や外食などにも出かけることができていたが、現在は自粛している。現在は、事業所周辺は川沿いの道をゆっくり散歩する程度に留まっているが、職員は重度の利用者も含めて事業所の外に出てもらい、外気に触れたり景色を見て楽しんでもらったりできるよう、心がけて取り組んでいる。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	地域の人や認知症サポーターの協力体制が今のところない				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	気候の良い頃は、少しの時間でも散歩に行く時間を作っている。			○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	日常の会話で希望を把握し家族には伝えている 現在外出が難しいが出来る範囲での支援は行いたい				
14	心身機能の維持、 向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	利用者一人一人の状態の把握に努め、その後の変化を職員が見極め相談し、多方面からアプローチを行いケアに努めている。				職員の思いで、待つことができずについ手を出したくなる場面も見られるが、利用者のできることやできそうなことを見極めて、見守りや待つ介護に努めている。また、日常生活の中で生活リハビリなどを取り入れながら、職員は利用者の心身機能の維持や、向上が図れるよう努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	身体機能の低下は学習し理解しており、機能を維持出来るような生活リハビリや居室の温度調節を行うなどの取り組みを行っている。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	例えば洗濯物を畳む時、職員は声掛け見守りを行い、出来ない方を出来る方がフォローする場面があり、生活の中でそういった場面が増えるように支援に努めている。	○		◎	
15	役割、楽しみごと、 気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	フェイスシート、聞き取りで個々を把握するよう努めている。				調理の下ごしらえや後片付け、洗濯物たたみ、モップ掛けなど、職員は利用者に役割や出番づくりができるよう支援している。利用者に手伝ってもらった場合には、職員は、「ありがとうございます」などの感謝の気持ちを伝えている。また、利用者に身体状態の変化があり、以前していた掃除機での掃除ができなくなっても、職員は車いすの使用でも現状でできる手すり拭きなどを見つけ、掃除することを継続してもらっている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	日々の生活の中で、レクや会話や家事をする事で本人に楽しみや役割を持って生活していると感じてもらえるよう支援している	◎	◎	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	現在外出や外部の人との接触を行っていない				

愛媛県グループホーム元気家

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみや おしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つとらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	本人の持ち物、日常生活での会話などで把握するよう努めている。				着替え時の衣類など、利用者に選んでもらえるよう支援している。目の見えにくい利用者にも、声かけをして選んでもらうことができている。また、整容の乱れや汚れが見られる場合には、利用者の気持ちを配慮しながら、声かけや対応をしている。さらに、ベッド上で過ごすことが多い利用者にも、離床時は整容し、好みの衣服を着用するようにしている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	家族様と相談し、本人の好みに整えられるよう支援している。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	入浴などで更衣する時などは、利用者様の表情を見ながら職員と一緒に決めている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	氣候や行事に合わせて、利用者さまと相談しながら決めている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできたり、げなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	衣類の汚れや整容の乱れなどには、周囲に配慮した声掛けで居室などで整えるようにしている。	◎	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	家族様に協力頂き、馴染みの店を利用出来る様支援している。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	重度な状態であっても離床の際はご本人の好みの服を着用してもらい気持ちよく過ごせるよう支援している。			◎	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食べる事は楽しみであり、生きる事と理解している。				利用者のリクエストメニューや旬の食材を取り入れながら、職員が献立を作成している。コロナ禍以前は、利用者と一緒に食材の買い出しに出かけていたが、現在は職員のみで、週2回買い物に行っている。調理の下ごしらえや後片付けなどを利用者と一緒に手伝ってもらいながら、職員が調理している。若い職員は、料理本やSNSのクックパッドを見ながら、調理をすることもある。アレルギーや食べやすい食事形態にも、利用者に応じて柔軟に対応している。食器類は、使い慣れた物や使いやすい物を使用している。以前は利用者と一緒の食卓を囲み、同じメニューを食べることができていたが、現在のコロナ禍において、職員は利用者と少し距離を取り、会話や介助、見守りをしながら食事を摂っている。また、リビングに面したキッチンからは、重度な利用者も調理の音や匂いが感じられるほか、職員がその日のメニューを伝えるなど、食事の雰囲気を楽しむことができる。さらに、栄養バランスや利用者の食事摂取量、食べやすさなど、職員間で話し合うことができている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	出来る時に負担にならない作業をして頂いている。献立立て・テーブル拭き・エプロン着脱・食器拭きなど			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	作業が習慣となり、自発的に参加する事が出来ている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	好き嫌いに関しては本人との会話の中で把握しており、アレルギーの有無には入居時に確認している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味やおいしいものを取り入れている。	◎	メニュー作りには利用者の意見を取り入れ立てられている。旬の食材を取り入れるようにしている。			◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いどりとろの工夫等)	○	材料の硬さ、大きさに配慮し、利用者に合わせて食器を選定して提供している。どんな食事形態でも彩り、美味しそうな盛り付けに努めている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	自宅から持参されたものや食事形態により使いやすいものを使用している。			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	コロナ感染予防の為、現在は距離を少しあけて見守りしながら同じ物を食べている。食器の入れ替え・声掛け・食べこぼしの片付けなどのサポートは手機械き行い会話する時間なるべく取っている。			◎	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	カウンターキッチンより職員が見守り、声掛けながら調理を行っている。	◎		◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	日々の状態、食事を観察記録し、把握するように努めている。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	状態に合わせた飲み方、食べ方、少量に回数を増やす等低栄養、脱水にならない様努めている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	献立のバランス、調理法は、日々職員で話し合って決めている。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	調理用具は毎日消毒を行い、冷蔵庫なども定期的に掃除している。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	勉強会を通じて理解を深めている。				定期的に、事業所には訪問歯科の往診があるほか、異常が見られた場合には迅速に歯科医の受診につなげている。管理者は、「口から食えることが大切である」と考えているとともに、職員も口腔ケアの大切さや身体への影響も理解しており、毎日の口腔ケアに取り組んでいる。また、定期的に職員は、自分で歯磨きなどができる利用者も含めて、利用者全員の口腔内の状況を把握することができている。また、毎週歯科医の訪問があり、摂食嚥下障害のある利用者のリハビリを行っている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	定期的な訪問歯科検診を行い、ケアについても歯科医より指導頂き把握している。			◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	◎	訪問診療時、指導頂き実践している。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	職員が見守りを行い出来ない部分を支援している。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	口腔ケアの声掛け見守りを行い必要があれば助し、日常的に観察し支援を行っている。			◎	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	◎	異常が見つければかかりつけ医に連絡し、往診出来るよう対応している。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	排泄の自立は自信回復になり意欲向上につながる。おむつなどの利用は意欲低下や湿疹かぶれ等、身体的なダメージがあると理解している。				事業所には、常時おむつを使用している利用者はおらず、一人ひとりの状態やタイミング合わせて、職員は声かけやトイレ誘導などの支援をしている。リハビリパンツを使用している利用者も多く、肌触りや自立心に配慮するなど、なるべく布パンツを着用して生活してもらったり、職員間で話し合いながら、パッドなどの排泄用品の使用が減らせたりできるよう努めている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	学習し理解出来ている。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	記録や日々の介助にて把握出来ている。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	日々の介助にて変化があれば、カンファレンスを通し見直せるよう支援している。	◎		◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	食事量、水分量の見直しを行ったり、食材等を変えるなど行なっている。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	個々の排泄を24時間記録、排泄パターンを把握した上で声掛けやトイレ誘導を行っている				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	紙パンツ、パットが必要であると判断した時は、家族へ説明し了解を得るようにしており、使用するものは本人や家族と相談しながら選んでいる。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	状態の変化に合わせて使い分けている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	食材の見直し、おやつに乳製品、寒天を取り入れるなどの工夫、散歩などの生活リハビリを行っている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	体調、気分に配慮しつつ、利用者に希望を聞いて入浴出来るよう支援している。	◎		○	週2～3回を基本として、利用者は入浴することができる。管理者は、「入浴の回数や時間など、利用者から要望があれば、できる限り対応していきたい」と考えて支援している。また、好みや使い慣れたシャンプーや石けんを使用している利用者も多く、職員は入浴が楽しみになるよう努めている。さらに、個別浴槽のため、湯船に浸かることが困難な利用者には、足浴をしながらシャワーでお湯を浴びてもらうなど、温まってもらえるよう支援している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	入浴剤を使用したりゆず湯など季節の行事を取り入れたりしながら楽しい気分で入浴出来るよう支援している				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	出来る所はして頂き、職員は安全に入浴出来る様、見守りを行っている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	拒否の原因を職員が見極め、会話や時間、入浴日を変更するなどの対応をしている。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	バイタルチェックを行い、本人にいつもと変わりがないか観察し入浴を決めている。浴後には水分補給しながら経過観察している。				

愛媛県グループホーム元気家

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	日々の記録、申し送りで把握に努めている。				入居前から継続して服用している利用者もいるものの、主治医と相談や連携を計りながら対応している。事業所では、日中の過ごし方や対応を工夫し、利用者が減薬できるよう取り組んでいる。また、生活習慣に配慮しながら、生活リズムを整えるなど、現在夜間に良眠できている利用者が多い。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	今までの生活習慣を考慮しながら、日中の離床時間を増やしたり体を動かす時間を増やすなど生活リズムを整えるよう取り組んでいる。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	日々の状態の変化を観察し、記録を取り、職員間で話し合った後、主治医や家族と相談を行っている。			◎	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	一人ひとりの生活パターンを把握し、声掛けを行っている。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	本人の希望があれば、その都度対応している。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	本人の希望に添えるよう心掛け対応している。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	電話の子機を使用、本人の希望する場所(居室など)でゆっくり会話出来るようにしている				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	手紙があれば直ぐ本人に渡しており返信・電話の連絡がとりたい希望があれば職員が対応している。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	希望ある場合、家族に説明し理解頂くように対応している。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	お金を使う事は、社会生活を送っている事であり、安心、満足感を得る事と理解している。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	×	現在買い物などの外出は行っていない。職員が希望を聞き代わりに対応している				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	現在は移動販売も中止している				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	本人の希望を聞いた上で家族と相談し、支援のあり方を決めている。お金を所持する事で安心する場合は少額のお金を馴染みの財布に入れ所持してもらっている。家族の意向で所持しない利用者が圧倒的に多い				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	△	本人、家族様には事前に説明し、必要あれば話し合いをもっている。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	入居時に預り金の管理方法について説明し同意を得ている。毎月預り金残高報告書を作成し領収証と一緒に家族に郵送している				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	家族から要望があれば検討し、出来る範囲での対応に努めている。	◎		◎	家族とお墓参りに出かけたり、行きつけの美容院に通ったりするなど、職員は利用者や家族の希望のほか、その時々ニーズに合わせて、柔軟に対応をしている。また、コロナ禍以前は、利用者の要望に応じて、マッサージなどの外部サービスを取り入れることができていた。

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	入口は塀がなくオープンにしている。日中は施錠しておらずインターホンを設置、文章で表示もしている。	◎	◎	○	散歩ができる川沿いに事業所はあり、建物に分かりやすく事業所名が表示されている。また、玄関を入るとすぐ事務所があり、来訪者にも声をかけやすくなっている。また、玄関周辺はすっきりと整理整頓されている。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。（天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそごうような設えになっていないか等。）	○	共有の空間は家庭的な雰囲気を残しながら、季節を感じて頂けるよう飾り付けをしている。 居室は殺風景にならないよう本人・家族と相談し、なじみの家具を持ち込むなど工夫している。	◎	◎	○	共用空間にある対面キッチンから、職員はリビングにいる利用者の様子を見渡すことができ、コミュニケーションも取りやすい状況となっている。利用者と一緒に作った季節に応じた貼り絵や、書道が得意な利用者の作品などが飾られ、温かみのある空間となっている。また、事業所では、利用者にエアコンの風が直接当たらないように吹き出し口を工夫し、快適に過ごせるようにしている。さらに、廊下にはベンチを置き、利用者が歩行途中に座って休憩できるよう配慮している。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	朝と夜掃除をし清潔な環境の保持に努めている。			◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激（生活感や季節感を感じるもの）を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	テレビや新聞を身近に置き、家と同じような生活が送れるようにしている。季節に応じた壁の展示物や花を飾ったり音楽を流すなどしている。			○	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	利用者の生活スタイルに合わせた空間作りを行い、居室とホールを自由に行き来出来るようにしている。				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	構造上見えなくなっており、トイレや浴室への入り口は閉めるように配慮している。				
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	本人の好みや自宅で使用してきたものを家族と相談し、使用出来るようにしている。	◎		○	居室には、ベッドや押し入れ、エアコンが備え付けられている。使い慣れた家具や仏壇、お気に入りの物を持ち込むことができ、利用者に合わせた居心地良い空間づくりができています。また、事業所横の川沿いを通る知人と、居室の窓辺から話すのを楽しみにしている利用者もいる。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	トイレや浴室は大きく表示し、居室には利用者の目線の高さ（車椅子の方には低い位置）に表れを貼り、迷いにくいよう配慮、本人の自立を妨げないようにしている			○	事業所では、利用者一人ひとりの目線の高さに配慮し、分かりやすいように居室の入り口の目線の高さに合わせて利用者と担当職員の名前を表示している。また、廊下の取りやすい場所に新聞を置き、新聞を呼んで利用する利用者もいる。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	持ち物に名前を書いたり居室入口に表れを貼ったり間違いを防ぐよう工夫している。新たな問題が見つかった場合はその都度対策を検討している				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。（ぼうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等）	○	リビングには新聞、裁縫道具等をいつでも取れる所に置いてあり、個人の趣味の作品を飾るなどしている。				
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット（棟）の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。（鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等）	○	代表者、すべての職員が施錠する事に関して利用者に及ぼす心理的な弊害について勉強、理解している。	◎	◎	△	事業所では、日中玄関は施錠していない。普段は、両ユニット入り口も開放しているが、訪問調査日の数日前に入居された利用者の帰宅願望が強く見られ、職員間で危険性などを検討したうえで、家族に相談して一時的に施錠し、様子を見ている。また、職員は鍵をかけることも弊害を理解しており、なるべく利用者が落ち着いて生活できるように、声かけなどの対応をしている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	施錠しない自由な生活の大切さについての説明は行っているが自宅で生活している時一人で外出し迷ったり怪我をした経験のある家族は不安が大きい。話し合いは行っている				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している（外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等）。	○	玄関にドアチャイムを付けたり職員間の声掛けの強化、また出入口に近い場所に職員が座る等工夫し日中は施錠していない。夜間は防犯を考え施錠している。				

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	既往歴・現病にはケースファイルなどで普段から目を通し把握に努めている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	普段の状況を把握し利用者の変化に目を配り早期発見に努めておりケースファイル・申し送りに記録している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	主治医や看護師に24時間体制で相談出来る体制をとっている。小さな事でも相談し、重度化の予防や専門医・入院など医療連携が上手くとれるよう努力している				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	入居前の受診状況はアセスメントシートや家族の聞き取りで把握、受診の際は本人・家族と相談。出来る限り希望に添うように支援している	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	体調・病状・車椅子使用による移動手段等を考慮し本人や家族と相談してかかりつけ医を決めている。 かかりつけ医を変えたくない場合は本人や家族の意向を尊重、適切な医療が受けられるよう支援している				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	月2回の往診の結果や体調・状態については、変化がない場合も含め家族に報告。専門医受診の必要性のある場合は、その都度家族と相談し受診の支援を行っている				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院時は、本人の心身機能や生活習慣等を含む情報提供を行っている				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	入院時は病院に出向き、本人の病状や状態を把握。主治医や担当看護師、相談員等関係者と情報交換を行っている				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	病院の連携室と交流を持ち情報交換を行っている。 病院主催の公開講座に参加、関係作りに努めている				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	週に一度、看護師が来所。その際気になった事を相談気をつける事や退所の方法等についてもアドバイスを頂いている。 ○ 夜間の急な発熱や体調変化の場合も、その都度相談し主治医や救急病院などへ繋いでいる				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	利用者の24時間の対応先が決まっている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	個々の健康管理を毎日行い記録する事で小さな体調の変化に気づき、職員間の情報共有が出来ている。 それを伝える事で早期発見・治療につなげている				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	処方薬の薬情の一番新しい物を経過記録に挟み、目を通し理解している。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	薬の変更、誤薬防止の為、情報の共有、チェック体制を整えている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	服薬変更になった時など、状態の変化に注意し、変化があれば記録に残し医師や薬剤師に相談している				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	薬の変更あれば様子観察し記録に残し、家族への報告医師・看護士へ相談している。				

愛媛県グループホーム元気家

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	入居時重要事項説明書を通して説明し、本人・家族の意向を確認している。重度化した場合、変化の段階ごとに主治医も交え相談。意向を確認し共有している				事業所には、「看取りに関する指針」があり、入居時に重要事項と合わせて利用者や家族に説明し、意向を確認している。重度化した場合には、利用者と家族の意向を踏まえて、段階に応じて医師や看護師、職員がその都度話し合い、方針を共有しながら安心して終末期を迎えられるよう支援している。また、訪問調査を実施した9月にも、2名の看取り介護を経験している。さらに、若い職員には看取りの不安があり、看取り支援後には職員間で話し合い、気づきや思いを共有しながら振り返りをしている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	本人・家族と意向を話し合うと共に職員間でのカンファレンスも繰り返し行っている。また主治医・訪問看護師とも情報共有を行い、全員が共有出来るようにしている。	○		◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々の職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	職員の知識や技量、看取りケアについての思いを個別に聞き、どこまでの支援が出来るか判断している				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	週末期を迎えた利用者の対応については介護職では出来ない事も増えてくる為、「できること・できないこと」や対応方針を説明し理解を得ている				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	本人が最後まで安楽に過ごす事が出来るよう、医療関係者・家族と密に連絡をとり支援出来る体制を整えている。また状態に合わせた介護計画の見直しや家族と過ごす時間の確保など、出来るだけ希望に添えるように努めている				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	家族への連絡を密にとるよう心掛け、落ち着いた場所で家族の不安や要望、利用者への思いを傾聴。心情を理解し支えるよう努めている				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	DVD・資料などで定期的に勉強会を行い学んでいる				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	感染症用のエプロン・手袋などをセットし決めた場所に置いてすぐに対応出来るようにしている。 色々な感染症に対しての手順や訓練を行っている				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	行政から送られてきた情報やインターネットで得た情報などを印刷し、職員に回覧、周知している				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	行政からの情報やテレビの情報など、出来る限り情報収集し、随時予防に努めている				
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	職員は手洗いやうがい、マスクの着用を心掛けている。 食事の前は手の消毒を行い、外出後は手洗いとうがいをし、来訪者にも協力をお願いしている				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	面会時など家族様と話しコミュニケーションを取れるよう努めている。				現在のコロナ禍において、家族が参加できる行事は中止しているものの、家族からの差し入れに対応するほか、居室の窓辺と事業所の川沿いの道から、距離を確保した面会にも対応をしている。管理者は、「今後の感染状況を見ながら、制限時間等を設けたうえで、ロビーで面会すること」を検討している。また、電話連絡のほか、携帯電話のショートメッセージを活用して家族と連絡を取り合うことも多い。さらに、毎月請求書の送付時に近況報告をしたり、年4回発行する「元気家便り」に、担当職員が書いた利用者の様子と写真を添えて、家族に送付することができている。加えて、毎回運営推進会議の会議録も家族に送付するなど、事業所の運営上の出来事を伝えることができている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	×	コロナ以前は面会時間に関しては柔軟に対応、居室でゆっくり過ごせるよう椅子や机、飲み物を用意するなどの対応を行っていたが、現在は居室内の立ち入りを行っていない				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	×	季節の行事や誕生会・お花見など一緒に参加できるよう声掛けを行っていたが、現在は中断している	×		△	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	面会が少ない家族には電話で様子を知らせたり、ホーム便りを発送。ホーム便りには写真や担当者から最近の様子をお知らせする文章を入れ、利用者の近況がわかるようにしている	○		◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	面会時や介護計画の説明時に家族の知りたい事や不安に感じている事、利用者を取り巻く家族の事情などを把握し、出来るだけその事に対し報告を行っている				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	認知症発症後の家族の関わり方や対応、病気についての理解等、家族が抱えている問題を把握し、本人とより良い関係が続いていけるよう支援している				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	事業所のの都度報告、同意をもらっている。行事や職員の異動などは文章や口頭で随時報告。理解や協力を得ている	○		◎	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	×	コロナ感染予防の為、家族同士の交流が図られる取り組みは行っていない				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	利用者の状況の変化の兆しが見られたら、これから起こると思われるリスクを家族様に説明し、考えられる対応策を話し合い理解して頂けるようにしている。				
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	契約内容についてはその都度具体的な説明を行い、理解納得してもらっている				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	退去に至った過程を具体的に説明し納得してもらっている。退去先に関しては、本人や家族の希望に添うよう退去先の紹介を行い、本人の状況に適した場所に移れるよう支援している				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	契約時及び料金改定後は、具体的な内容を文章で示し説明、同意を得ている				

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	設立段階から町内会に参加、地域清掃や町内行事に参加、交流を深める事で理解を図よう努力している	/	◎	/	コロナ禍以前は、利用者と一緒に文化祭や町内清掃などの地域行事に積極的に参加し、地域住民と交流することができていた。秋祭りの際には、事業所を休憩所として活用してもらい、地域の子ども達も立ち寄ることができていた。現在のコロナ禍において地域行事が中止となり、日常的に行う挨拶程度に留まっている。また、管理者は、「コロナ禍が収束すれば、以前のように地域住民と交流を再開したい」と考え、行事などの交流を検討している。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。（日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等）	△	日常的な挨拶は行っている。町内清掃や秋祭り、文化祭など参加し交流を深めていたが現在町内の行事は全て中止になっている	/	◎	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	近隣の人や広報委員の人など、少しずつではあるが増えている	/	/	/	
		d	地域の人気が気軽に立ち寄ったり遊びに来たりしている。	△	少数ではあるが散歩の途中休憩をとる方が少しずつ増えている。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	挨拶を交わすなど日常のお付き合いはしている。回覧板での行き来や、野菜や果物を頂いたり等の交流はある。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。（日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援）	×	現在は近隣の方やボランティアの訪問など受け入れていない	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	現在地域資源の活用は少ない。地域資源の把握に努め、豊かな暮らしを楽しんでもらえるよう支援していきたい	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている（公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等）。	×	近隣の福祉施設などには繋がりがあがるが、スーパーや飲食店へは近くに無く働きかけが出来ていない。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	△	令和2年度、今年度とも運営推進会議は文書開催を行っている。意見やアドバイスは頂いている	○	/	○	現在のコロナ禍において、運営推進会議は文書開催となっているものの、事前に参加メンバーから意見を聞くことができています。また、会議では事業所の行事や活動状況、サービスの評価結果や取組み状況を報告するほか、利用者の課題などについて、参加者と意見交換をしている。さらに、会議録などの報告は、参加メンバーのほか、全ての家族に送付することができています。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況（自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等）について報告している。	○	前回の会議の助言や要望に対しての取り組みを報告、助言を頂いている。また目標達成計画にあげた地域との繋がりを深める取り組みや災害時の対応方法などについても現在の状況を報告している。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	前回の会議で出た意見や助言に対しての取り組み内容を報告。解決していない課題や新たな課題などに対して率直な意見を頂きサービス向上に努めている。	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	テーマに合わせ参加メンバーの対象を増やす等の配慮を行っている。日程は会議の終わりに次回の日程を決め参加メンバーの日程調整がしやすいよう配慮している。	/	◎	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	議事録を玄関入口の掲示板に張り出している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅳ.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	全員で考えた理念を掲げ共通認識を持つ事が出来ている。理念を念頭に介護計画を立てる事で日常的に理念に基づいた介護が実践出来るよう努めている				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	玄関の入口に掲示、家族には入居時や介護計画の説明の際伝えているが、伝えられていない感がある	○	○		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	職員の力量を把握し、その力量に合った講習があれば受講出来るよう紹介や調整を行っている				代表者は市内において幅広く介護サービス事業を運営しているため、事業所に来訪する機会は少ないないが、毎月実施する同法人内の系列事業所の管理者を集めた管理者会議には参加し、意見交換をしている。管理者は、職員から出された意見や要望も、必要に応じて代表者に伝えることができています。また、法人・事業所として、定期的に社内研修会を開催し、職員のスキルアップに努めている。また、事業所の開設当初から働く職員も多く、安心して働くことができています。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	職員が学びたい内容の社内研修会を定期的に行いスキルアップに取り組んでいる。受けた研修がある場合は勤務の日程を調整するなどの取り組みを行っている				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	出来る範囲で対応している。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	グループホーム交流会や他グループホームとの交流や勉強会は引き続き行っているが、コロナ禍の現在、以前より少なくなっている				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	出来る範囲で取り組んでいる。	◎	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	高齢者虐待防止法について研修などで学習している。何が虐待にあたるのか、不適切なケアについても職員会で話し合っている。				虐待や不適切なケアについて、職員は社内研修会などで学び、理解している。日々の業務において、事業所では職員自身や職員間で振り返り、考える機会を設けている。また、不適切なケアを発見した場合の対応方法や手順について、職員全員に周知している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	気になった事はその都度話し合っている。またミーティングや職員会、カンファレンスで話し合う機会を作っている				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃ごされることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	小さな事でも虐待に繋がるおそれがある事に関しては、その都度話し合いを行い防ぐようにしている。対応方法や手順に関しては学習している。			◎	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	日々注意を払い点検している。状況によっては個人面談を行い、ストレスを取り除くよう努めている				
44	身体拘束をしない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	身体拘束しないケアについて周知している。また日々話し合いを行い勉強会も行っている、				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	定期的に話し合う機会をつくっている。またそれに繋がるかもしれない事例に関しては、その都度全員で話し合いを行っている				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	家族から要望があった場合、考えられる弊害を説明、事業所の取り組みについて説明している。それに代わる対策を提案したり話し合いを重ねる事で家族の理解を得るよう努めている				

愛媛県グループホーム元気家

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する 制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	○	制度について学習し理解している。 また成年後見制度を利用している為勉強している				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	利用者の変化にともない家族への説明を行ったうえで家族の現状に添った情報を提供し相談出来る様努めている				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	市役所、包括支援センターなどと運営推進会議、ケアネットなどへの参加のおり情報交換し連携をとれるように努めている。				
46	急変や事故発生時の 備え・事故防止の 取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	急変や事故発生に備えて急変時のマニュアルを作成、職員がすぐ手に入る事が出来る場所に置き周知している				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	社内外の研修会に参加し実践力を身につけている。 初期対応の訓練は行っているが回数は少ない				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハットが出たら情報を共有し事故防止に努め、事故報告があれば対策について話し合いをし再発防止に努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	日々の状況の変化に気付いた時、申し送り等で情報共有しカンファレンス等で話し合いを行う取り組みをしている				
47	苦情への迅速な対応と 改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	職員は苦情対応マニュアルの内容を理解している。 また対応方法については速やかに対応、対策を話し合う体制を整えている。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情が寄せられた場合は速やかに報告し手順にしたがって対応するよう体制を整えている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情に対して速やかに対策案を検討、回答するとともにサービス改善の経過や結果について納得を得られるよう話し合う体制を整えている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	日頃の会話で出た意見から要望等を把握するように努め、個別に話しが必要であれば時間を設けている。			◎	職員は、利用者の話しの傾聴やコミュニケーションの時間を大切にしており、日常的に意見や要望を聞くことも多い。家族からの意見は、面会時や電話連絡時などを活用して、聞き取りをしている。また、管理者は職員との会話できる時間を確保し、職員が安心して仕事に取り組みながら、利用者本位のサービスが提供できるよう努めている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	ホーム玄関に意見箱を設置し、苦情や要望を言えるようにしている。	◎		◎	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	重要事項説明書に明記し、契約時書面と口頭で説明。必要に応じて随時情報提供を行う体制を作っている。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	現場に足を運び職員の意見や要望・提案を聞くようにしている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	個人面談等の時間を作り、職員の意見や提案を聞くようにしている。個人面談以外でもゆっくり話す時間をとり会話の中から考えや思いを把握、利用者本位の支援に繋げていく事が出来るよう努めている			◎	

愛媛県グループホーム元気家

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	サービス評価をする事でよりよい支援を行う事が出来ると理解し、全員で自己評価に取り組んでいる。				外部評価の自己評価は、職員全員で取り組み、管理者等がまとめて作成している。サービスの評価結果を取りまとめたものと目標達成計画は、運営推進会議の中で報告している。また、目標達成計画などの取組み状況も会議の中で随時報告し、参加者から意見を聞くことができている。さらに、出された意見を反映して、管理者等はサービスの向上に活かせるよう努めている。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	課題を明らかにする事で、職員の意識を高めたり課題にそった学習計画を立て、職員の知識や技術の向上を図る取り組みを行っている				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	出来る事から目標を立て、実行し、結果がえられるよう努めている。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議で目標達成計画を報告。それに対しての取り組みや結果を随時報告している。助言を頂くとともに取り組みのモニターも願っている。	○	○	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	運営推進会議や職員会議などで取り組みの成果を報告。助言や取り組み内容の検討を行い成果を確認している。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	火災や様々な災害を想定した具体的なマニュアルを作成しており職員は周知している。またいつでも見る事が出来るよう所定の場所に置いている				事業所では、様々な災害を想定した法定の避難訓練を実施しているほか、毎月抜き打ちで避難訓練を実施し、職員の防災意識を高めている。運営推進会議メンバーの防災士資格を持っている方から相談や助言をしていただくとともに、近隣住民との協力体制も確保している。また、事業所前の道路を挟んですぐに川があるため、豪雨等で川が増水した場合には、実際に1階にいる利用者が2階に垂直避難をした経験もあり、災害発生時の避難の対応について、職員間で課題を話し合うことができている。さらに、事業所では非常用の食料や備蓄品を備え、ライフラインが止まった場合を想定した食事づくりなどを職員が実際に体験していることもあり、利用者が食べやすい物の調理を工夫したり、必要な備蓄品などを再度確認したりするなど、職員間で検討することを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	日中、夜間、様々な状況を想定し避難誘導等訓練し、反省点など話し合うようにしている。また消火訓練は毎月行っている				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	消火設備は年2回点検を行っている。それ以外の備品などは定期的に点検を行っている				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	運営推進会議等で、町内会長・民生委員の方と話し合い協力を要請している。また近所の住民の方にも災害時協力してもらえよう支援体制を確保している。	×	○	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	×	研修等への参加は行っているが、共同訓練等への参加は出来ていない。今後災害時を想定した地域のネットワーク作りに参加したり関係各所への働きかけを行ってきたい				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	外部との取り組みは現在行っていない				事業所では、地域の高齢者や家族から相談があった場合には快く対応している。事業所として、地区のグループホーム連絡会に参加協力するなど、市担当者や地域包括支援センター、民生委員と協力を構築できている。また、事業所では、外国人の技能実習生の受け入れにも協力をしている。さらに、管理者は地域住民が気軽に相談ができる場所となるよう、地域に浸透していくような新たな取組みを検討している。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	民生委員の方から相談があれば窓口になっている。電話で相談してくる場合は適切な対応に努めている。		△	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	事業所を開放したり活用は出来ていない				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	現在は行っていない。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	ケアネット・異業種交流会に参加し情報交換に努めている。また地域包括支援センターや他事業所と共働で勉強会の開催を行っている。			○	